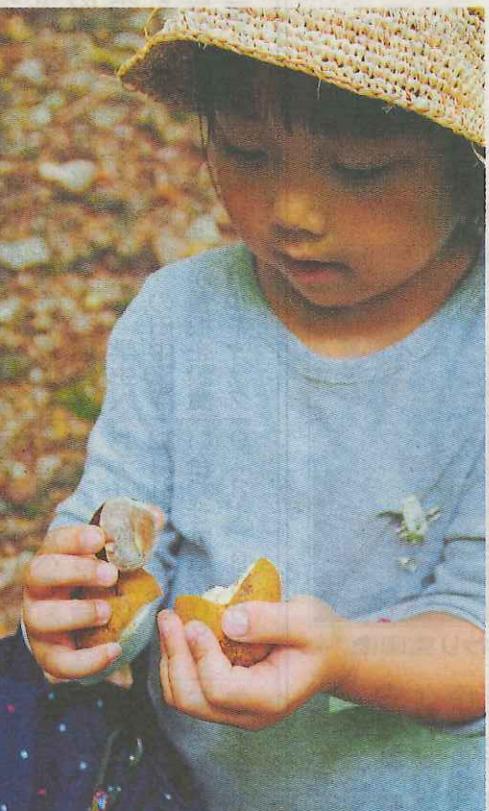


エッセイ

自然が育む力



さまざまな自然を発見する子ども

子どもと遊ぶ「いつも」の場所」がありますか？いつも行く公園、いつも通る森の広場。いつも見の積み重ねは、子どもにとって思い出として驚くほど色濃く残り、楽しい古里の情景を創り出します。

私も子どものころを思ふと、いつも遊びで遊んでいた広場に咲いていた花や、木の幹にいた虫、突然動き出したヘビのことを今でも覚えており、その広場の近くを通るたびに「あの花は咲い

たかな？」と懐かしく感じたりします。

実際に美方高原で毎月行っている「森のようちえん」の子どもたちの様子を見ていても、毎回同じ小路を通りて森に入つて遊ぶのですが、行く前

「いつもの場所」探検へ

から目を輝かせ、楽しんで遊びだけでなく、実際に様々な発見をしてくれます。

間たっぷりかかり、その中で素晴らしい表情を見せてくれます。一番喜ぶのは「いつもの場所」で、「いつもじゃない出来事」。今なら「あつ、わこわ」と手を出します。子どもにとって新しい所は、ワクワク感でいっぱいキノコが出て

所に連れて行くと、この所に連れて行くと、この子どもたちの様子が変わってしまうから不思議です。遊ぶ速度が違うといふのか、木に触ることで少し「わこわ」と手を出します。子どもにとって

ば、きっと面白い発見がたくさんあります。子どもたちの笑顔の向こうに見えるのは、未来と古里の両方なのかもしません。(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中聰人)

も、同時にストレスを感じる場所なのかもしれません。

大人はとく週末ごとに新しい公園や遊具、大型店舗にある遊び場に連れて行きたくなってしまいますが、この大人のワクワク感じるものと、子どもがワクワク感じるスピードは違うことを忘れずに。

この週末はあえて一緒に「いつもの場所」を探検に行きませんか。

もとと同じペースで歩け

ば、きっと面白い発見がたくさんあります。子どもたちの笑顔の向こうに見えるのは、未来と古里の両方なのかもしません。

新しい所は、ワクワク感でいっぱいキノコがあつたびに「あの花は咲い